

ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機かんたんガイド

FAPGJ106Nシリーズ

<https://www.nohmi.co.jp/shoninzu/002/002-0008.html>



FCSGJ106Nシリーズ

<https://www.nohmi.co.jp/shoninzu/003/003-0003.html>



進FAPGJ106Sシリーズ

<https://www.nohmi.co.jp/shoninzu/002/002-0009.html>



進FCSGJ106Sシリーズ

<https://www.nohmi.co.jp/shoninzu/003/003-0009.html>



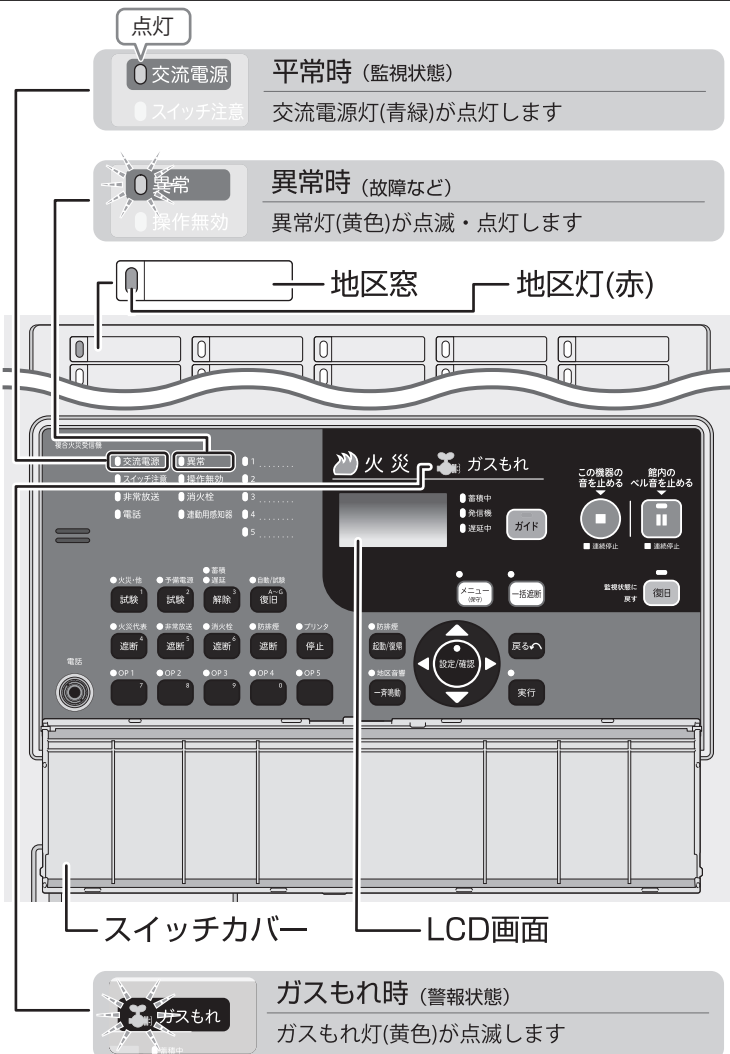
はじめに 本かんたんガイドは、GP型1級ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機 FAPGJ/FCSGJ106Nシリーズ、GP型1級（自動試験機能付）ガスもれ火災受信機／ガスもれ複合火災受信機 FAPGJ/FCSGJ106Sシリーズの機能のうち、ガスもれ検出機能について記載したものです。
火災検出機能については、同梱の「火災受信機／複合火災受信機かんたんガイド」をご覧ください。
本製品の取り扱い説明書は、上記2次元コードまたはURLからダウンロードいただけます。

危険

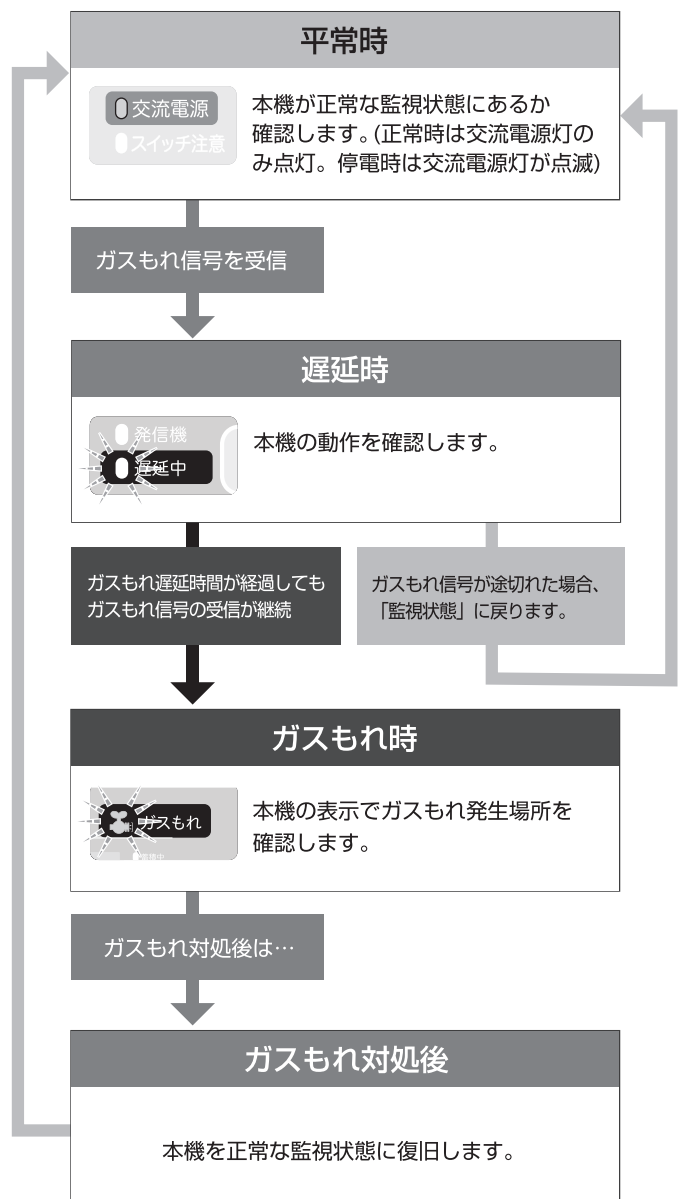


ガスもれ検知器が作動したら、火を消してガスの元栓を閉めて自然換気をしてください。
ガス管破損などによるガスもれの場合には、ガス会社に連絡してください。また、火気や静電気を発生する物を近づけたり、換気扇などの電気機器のスイッチをON/OFFしたりすると、爆発の危険があります。自然換気をしてください。

各部の名称（スイッチカバーを開けた状態）



運用の流れ



「ガイド」スイッチ灯（赤）点滅時に、発生イベントの対応方法などの確認ができます。

防排煙設備の連動や消火栓ポンプの始動、各種移報などを一括で遮断するときに使用します。

メニュー内の機能を使用するときや保守点検時に使用します。

ガスもれが保持設定となっている場合に、本機を復旧するときに使用します。

- 本ガイドの内容は、改善のため事前連絡なしに変更する場合があります。
- 本ガイドに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。

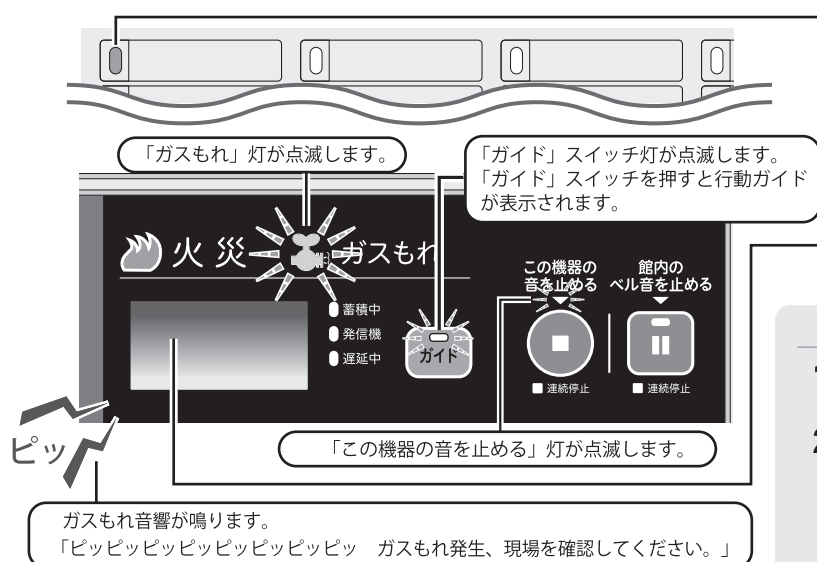
NOHMI

能美防災株式会社

本社／〒102-8277 東京都千代田区九段南4-7-3 TEL. (03) 3265-0211 (代)
URL <https://www.nohmi.co.jp/>

ガスもれ警報を発したら

ガスもれ時は、ガスもれ音響が鳴動します。また、ガスもれ発生と同時に警備会社、エレベータなどの関連施設、および付属設備（表示機、防排煙設備など）にガスもれ信号が送信される場合があります。なお、ガスもれ信号の送信先は、本機のデータベースで設定されています。



ガスもれ地区の地区灯が点灯します。

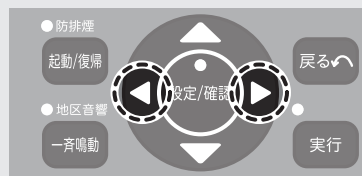
ガスもれ検知器が作動した回線を表示します。



オプションメッセージが設定されている場合はここに表示されます。

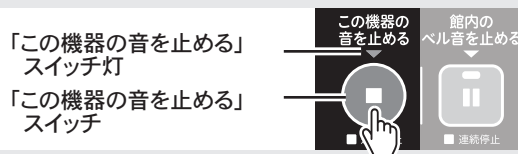
ガスもれ警報が複数発生している場合

- 1 ガスもれ警報が複数発生している場合は、LCD画面右上の件数表示の左右に「◀」「▶」が表示されます。
- 2 以下の「◀」「▶」スイッチを押して、発報した順にガスもれ警報を確認できます（後続送り操作）。最大25イベントまで確認できます。



ガスもれ音響を停止するには

「この機器の音を止める」スイッチを押します。ガスもれ音響が停止し、点滅していた「この機器の音を止める」スイッチ灯が消灯します。



ガスもれ時の行動

ガスもれ時の一般的な行動を以下に示します。

- 1 本機の表示を見て、ガスもれ地区を確認します。
- 2 ガスもれ発生場所の確認、自然換気、避難誘導、および消防署（119番）への通報などを行います。

Caution

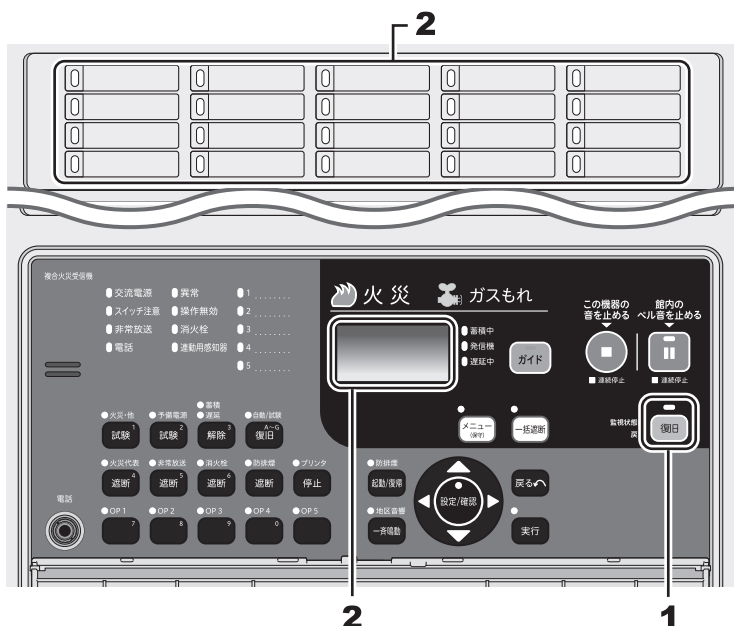
誤報だったときは

現場を十分に確認した上で、本機を復旧して平常の監視状態に戻してください。
復旧操作については、下記の「ガスもれの対処後は」を参照してください。

Point

一度ガスもれ音響を停止しても、他の回線でガスもれが発生すると、再度ガスもれ音響が鳴ります。

ガスもれの対処後は



スイッチカバーは、操作後必ず閉じてください。
ひっかけてけがをしたり、誤操作の原因となります。



ガスもれ対処前に機器の復旧操作を行わないでください。
ガスもれ状況の把握が困難になります。
また、あわてて復旧操作をすると表示状態の再確認ができなくなり、現場調査に支障をきたすおそれがあります。

ガスもれの対処後は、本機や付属設備を正常な監視状態に復旧してください。

ガスもれ対処後の本機の復旧操作

- 「ガスもれ非保持」に設定されている場合
ガスもれ検知器が復旧すると、自動的に監視状態に戻ります。
- 「ガスもれ保持」に設定されている場合
復旧操作を行ってください。

本機の復旧操作

- 1 スwitchカバーを開き、「復旧」スイッチを押します。
- 2 復旧後、点滅または点灯中の地区灯がないこと、およびLCD画面に何も表示されていないことを確認します。
また、一括遮断などのスイッチ操作を行った場合は、再度スイッチを操作して、正常な監視状態に戻してください。

Point

「ガスもれ保持」「ガスもれ非保持」の設定は、本機のデータベースで設定されています。